

Shibaura Machine

View the Future with You

株主の皆様へ

第103期報告書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

芝浦機械株式会社

証券コード：6104

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、心よりお礼申しあげます。

ここに、株主の皆様へ（第103期報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申しあげます。

<当期の状況と業績>

当連結会計年度における世界経済は、米国の通商政策やウクライナ情勢の懸念継続に加え、イラン情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりなど、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループを取り巻く経済環境においても、米国の通商政策やイラン情勢の緊迫化などの影響により、自動車市場を中心に設備投資の様子見が継続するなど厳しい状況で推移いたしました。

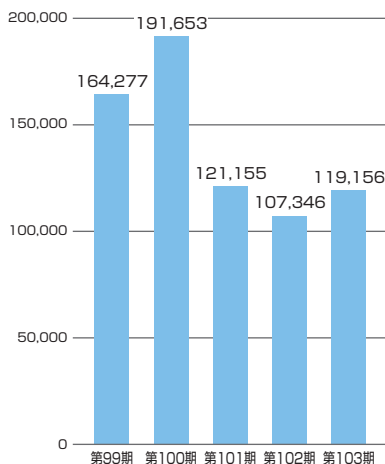


取締役社長
坂元 繁友

<業績ハイライト>

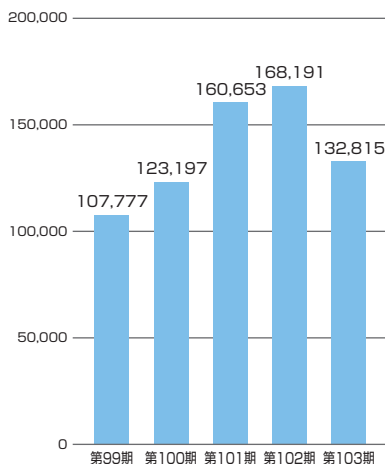
■受注高

(単位：百万円)



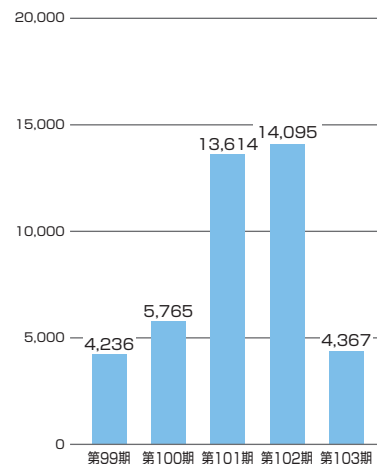
■売上高

(単位：百万円)



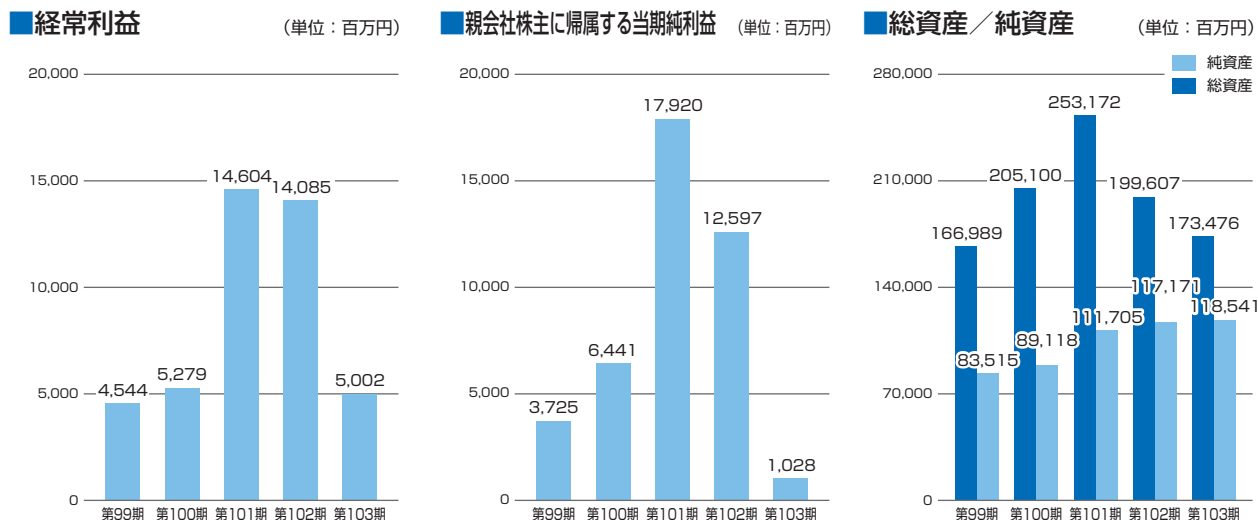
■営業利益

(単位：百万円)



このような経済環境のもとで、当社グループは中期経営計画「中計2026」（2024年度～2026年度）で掲げている事業ポートフォリオの組み替え、顧客の生産性向上に寄与するシステムエンジニアリング装置販売・直販への軸足シフト、事業ポートフォリオ組み替えにリンクした人材戦略、ESG経営の推進等の基本方針に基づき諸施策を遂行しておりますが、「『中計2026』26年度緊急対応について」（2025年11月19日付）にて公表のとおり「中計2026」は事業環境の大幅な変化により、2026年度の目標は未達となる見込みです。「26年度緊急対応」を策定し2026年度の業績にも寄与するよう施策を推進しております。

当連結会計年度の前連結会計年度比における受注高は工作機械セグメントを中心に全セグメントで増加し、1,191億5千6百万円（前連結会計年度比11.0%増、海外比率63.1%）となりました。売上高は射出成形機、工作機械、超精密加工機が増加しましたが、中国におけるリチウムイオン電池向けセパレータフィルム製造装置の減少により、1,328億1千5百万円（前連結会計年度比21.0%減、海外比率69.7%）となりました。損益については、規模減少による減益などにより、営業利益は43億6千7百万円（前連結会計年度比69.0%減）、経常利益は50億2百万円（前連結会計年度比64.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度に計上した固定資産売却益の反動減、2025年11月28日に持分取得し連結子会社化したSHIBAURA MACHINE LWB GmbHののれんの減損損失などにより、10億2千8百万円（前連結会計年度比91.8%減）となりました。



＜次期の取組み＞

当社グループは、2026年度を最終年度とする中期経営計画「中計2026」の目標は未達となる見込みですが、その乖離幅を埋めるべく「26年度緊急対応」を進めております。足元の世界経済は、地政学リスクの高まりから、設備投資に慎重な姿勢が見られることに加え、原油や部材の調達難、価格高騰懸念の高まりなど、一層の不透明感が漂う経済環境ではありますが、引き続き「中計2026」で取り組んでいる戦略・施策の実行と成果刈り取りのスピードを速めてまいります。

射出成形機は、市場拡大が見込まれるインドにおいて、増産によるインド国内の需要の取り込みと、原価低減による利益改善を図るとともに、中東・アフリカ・欧米・東南アジア等への輸出に注力。欧州においては、買収したドイツのSHIBAURA MACHINE LWB GmbHを足掛かりとして、容器・医療のドメインを中心に、クロスセルとインド工場からの部材調達による原価低減などのシナジー効果で、販売を拡大してまいります。中国においては、OEM生産と原価低減により販売の拡大と収益性の向上を図ります。

押出成形機は、再生可能エネルギー用及びデータセンター用のエネルギー貯蔵システムの電池需要の取り込み、また、リチウムイオン電池から将来置き換わるとされる次世代電池に対応する技術・製品の開発に注力してまいります。

超精密加工機は、データセンター増設を背景としたコネクタ用金型向けの需要、中国以外の新たな市場開拓を進め自動車・光通信・医療・プレス金型のドメインをターゲットとした欧米における需要を取り込んでまいります。

ダイカストマシンは、ギガキャストに対応し、引き続き低圧鑄造技術の開発や超大型ダイカストマシン6,000～12,000t級に加え4,500t級のラインアップを進めてまいります。

工作機械は、需要の高まりが想定される建設機械・マイニングなどのエネルギー関連、航空・宇宙、造船、防衛産業などのドメインに注力してまいります。

サービス事業の強化、生産年齢人口の減少を背景とした顧客からの生産工程の自動化ニーズに対応するためのシステムエンジニアリング装置販売等により、利益率の改善を図ってまいります。

今後製造業が直面する「メガトレンド」に卓越した技術力で応え、社会的課題の解決と企業価値向上の両立を目指すため、エネルギー関連と生産性の向上を軸として事業ポートフォリオを設定することで、目指すポートフォリオに向けた技術開発を推進し、常に顧客に寄り添いニーズに合った商品を創出、提供し続けてまいります。

生産効率と生産能力向上に向けた沼津工場の再編、新装置開発と販売促進に対応する押出成形機テクニカルセンターの建設、環境対応に向けた再生可能エネルギー等への投資、全社基幹システム（ERP）の更新、DX戦略の推進に加え、M&A／アライアンスなどを活用し、当社グループの企業価値向上に向けた投資を推進してまいります。

引き続き、法令遵守、ISO9001、14001をベースとした品質・環境管理の徹底、事業ポートフォリオ変革と連携した人材戦略、社会貢献への積極的な取り組みなど、ESG経営の推進により持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指してまいります。

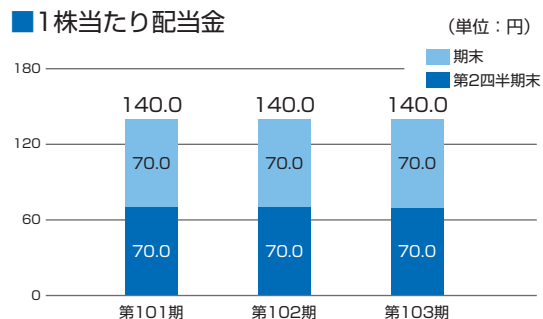
<配当について>

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。利益剰余金につきましては、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に判断し、人的資本の強化や生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していくとともに、継続して株主の皆様への適正な利益還元を実施してまいります。

当期につきましては、第2四半期末配当は1株当たり70.0円、期末配当は1株当たり70.0円とさせていただきました。この結果、年間で1株当たり140.0円とさせていただきました。

株主の皆様におかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2026年6月



事業別の概況

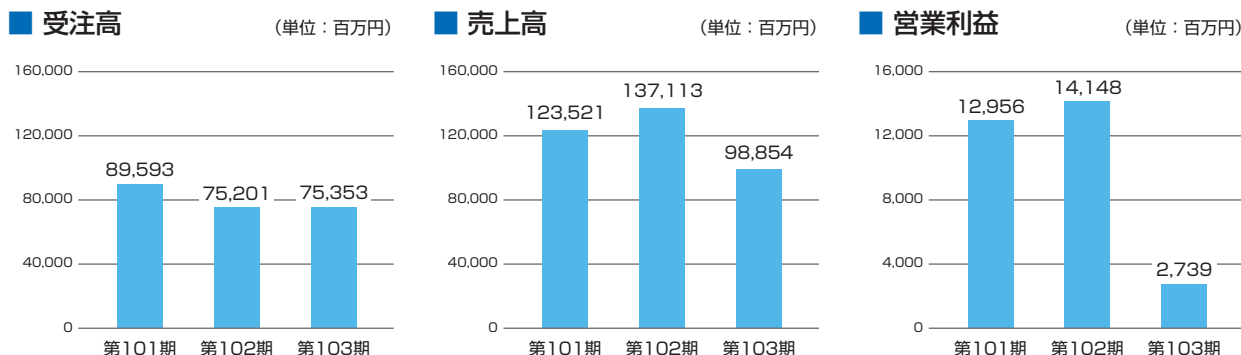
成形機事業【射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など】

射出成形機においては、販売は国内、北米、東南アジア、欧州で増加いたしました。受注は自動車市場の停滞や設備投資の様子見継続の影響もあり、国内、インドで減少いたしました。

ダイカストマシンにおいては、自動車向けが、販売は北米、東南アジアで増加したものの、国内、中国で減少、受注は北米、インド、中国で増加したものの、国内、東南アジアで減少いたしました。

押出成形機においては、中国におけるリチウムイオン電池向けセパレータフィルム製造装置が、販売は減少、受注は増加いたしました。

この結果、成形機事業全体の受注高は753億5千3百万円（前連結会計年度比0.2%増、海外比率73.3%）、売上高は988億5千4百万円（前連結会計年度比27.9%減、海外比率80.0%）、営業利益は27億3千9百万円（前連結会計年度比80.6%減）となりました。

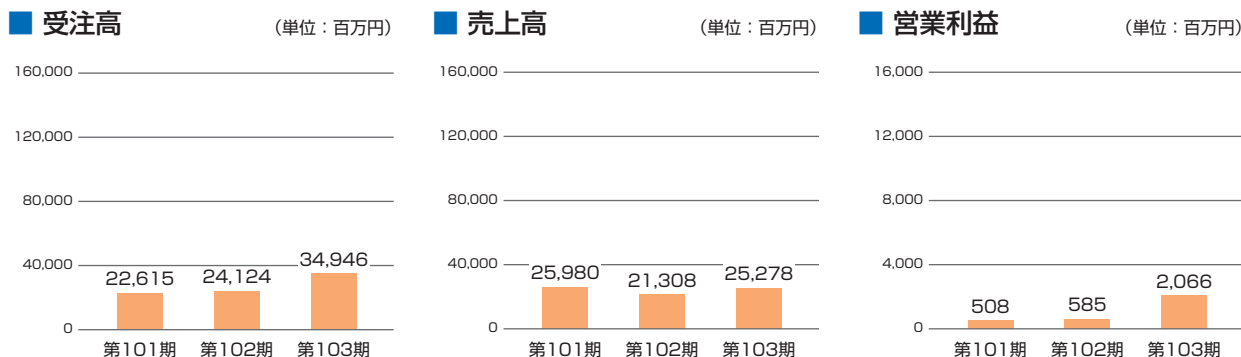


工作機械事業【工作機械（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤など）、超精密加工機など】

工作機械においては、販売は国内における産業機械等及びインドにおけるエネルギー向けが増加いたしました。受注は北米におけるエネルギー、航空・宇宙及び中国における風力発電向けが増加いたしました。

超精密加工機においては、販売及び受注はAI普及拡大による大型サーバー需要に伴い、中国における光通信向けが増加いたしました。また、販売は中国における自動車向け、国内における半導体向けも増加いたしました。

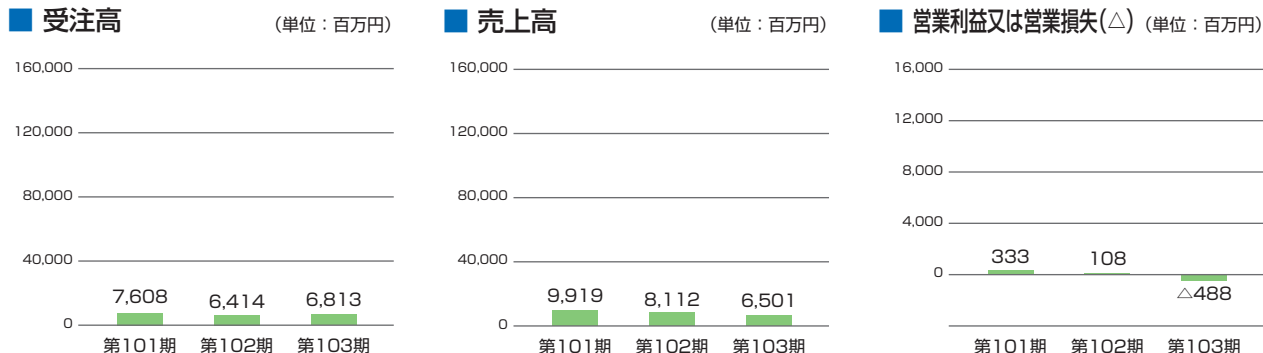
この結果、工作機械事業全体の受注高は349億4千6百万円（前連結会計年度比44.9%増、海外比率55.8%）、売上高は252億7千8百万円（前連結会計年度比18.6%増、海外比率51.7%）、営業利益は20億6千6百万円（前連結会計年度比3.5倍）となりました。



制御機械事業 [産業用ロボット、電子制御装置、システムエンジニアリングなど]

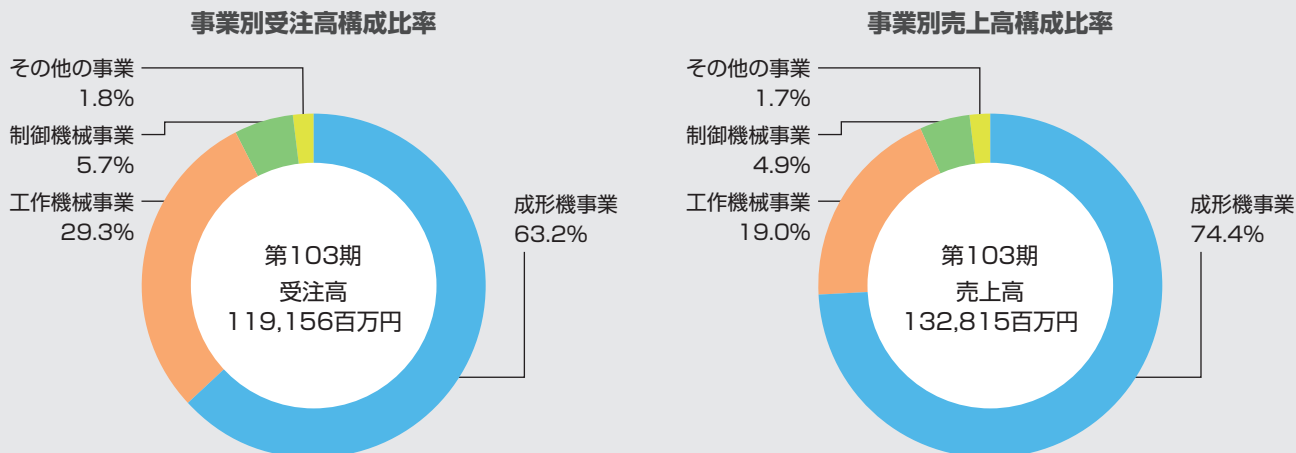
制御機械においては、国内における電子制御装置が、販売は減少、受注は増加いたしました。

この結果、制御機械事業全体の受注高は68億1千3百万円（前連結会計年度比6.2%増、海外比率6.5%）、売上高は65億1百万円（前連結会計年度比19.9%減、海外比率7.0%）、営業損失は4億8千8百万円（前連結会計年度は営業利益1億8百万円）となりました。



その他の事業

その他の事業全体の受注高は20億4千3百万円（前連結会計年度比27.2%増、海外比率0.3%）、売上高は21億8千2百万円（前連結会計年度比31.8%増、海外比率0.6%）、営業利益は2千4百万円（前連結会計年度は営業損失7億2千5百万円）となりました。



■ 欧州市場開拓

中期経営計画「中計2026」（2024年度～2026年度）で掲げている戦略・施策のうち、射出成形機をはじめとした当社製品の販売拡大を目指し、現在、欧州戦略を進めています。具体的な取り組みとして、2025年5月にドイツに新現地法人「SHIBAURA MACHINE EMEA GmbH」を設立し、また、2025年11月にドイツの堅型射出成形機メーカー「SHIBAURA MACHINE LWB GmbH」をグループ会社化いたしました。

ここでは、欧州市場開拓の施策の例として、欧州・米州市場向けの「新型油圧式射出成形機」と「SHIBAURA MACHINE LWB GmbH」をご紹介します。

新型油圧式射出成形機「S-GenXtシリーズ」を開発

欧州・米州市場に向けた新型油圧式射出成形機「S-GenXtシリーズ」を開発いたしました。

◆ 開発の背景

欧州・米州では、小型機を中心に電動式射出成形機の需要が増加する一方で、コストパフォーマンスや高出力の観点から、油圧式・ハイブリッド式のニーズも根強く存在します。

この市場環境に対応すべく、「S-GenXtシリーズ」は最新技術を搭載した油圧式射出成形機として誕生し、型締力100トン、180トン、230トンの3モデルをラインアップいたしました。今後本シリーズは、まず型締力850トンクラスまで順次ラインアップを予定しており、多様化する製品ニーズに柔軟に対応してまいります。



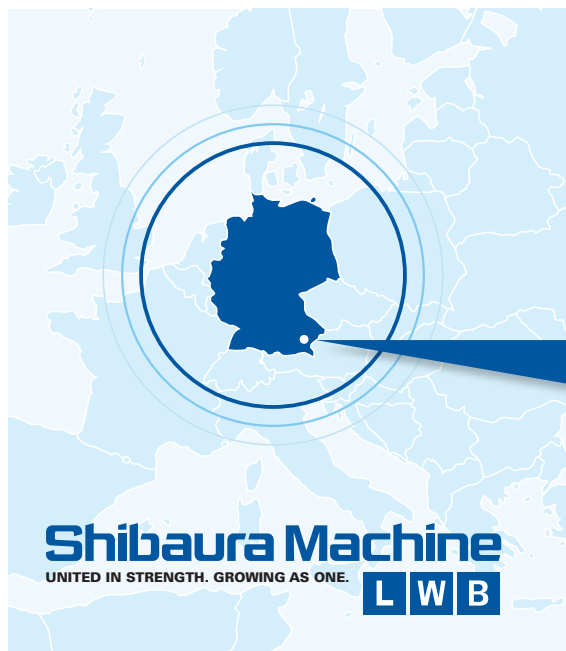
新型油圧式射出成形機「S-GenXt180」

SHIBAURA MACHINE LWB GmbHを買収

ドイツに本社を置くSHIBAURA MACHINE LWB GmbH (旧社名：LWB Steinl GmbH) は、1962年の創業以来、ゴムやエラストマー*用の縦型射出成形機を中心に、欧州・北米・中国など世界各地で60年以上にわたる実績を積み重ねてきた欧州の主要メーカーです。主にゴム加工用の効率的かつ精密なモジュラー式射出成形機に強みを持ち、欧州を中心に「LWB」ブランドは高い知名度を有しています。

同社を芝浦機械グループに取り込むことで、欧州における当社の射出成形機事業の生産拠点と販売・サービス力を強化するとともに、同社のブランド力を活かしながら、欧州市場参入の強力な足掛かりとしてまいります。

*エラストマー：ゴムとプラスチック両方のメリットを持つ素材



会社概要

社 名：SHIBAURA MACHINE LWB GmbH
設 立：1986年2月18日
所 在 地：Sonnenring 35, 84032 Altdorf, Germany
資 本 金：50万ユーロ
事業内容：射出成形機を中心とする産業用機械の製造・販売
従業員数：約210名



「つくる」を支える芝浦機械の製品

当社がつくり出す機械は皆様が普段目にすることはありませんが、皆様の生活に深く関わっています。

3つの事業セグメントの製品と貢献産業例を当社HPからご覧ください。

<https://www.shibaura-machine.co.jp/jp/ir/private/>



一例として成形機セグメントの射出成形機をご紹介します。

射出成形機

プラスチックやゴム素材を金型に注入し成形する機械装置。



貢献産業例

自動車

- バンパー
- ドアトリム



容器・日用品

- 化粧品の容器
- 食器



医療関連

- 注射器
- ダイアライザー



TVCM 放送中

まだこの世界にないモノを、つくるマシーンを、つくる。

俳優の阿部寛さん、中島歩さんが出演の当社TVCMを放送中です。また、当社をより深く知ることができる、CMのその先のストーリーが熱く展開されるドラマ仕立ての「WEB MOVIE」もぜひご覧ください。

詳しくは「CM特設サイト」をご覧ください

<https://www.shibaura-machine.co.jp/cm/>



「WEB MOVIE」はこちらからご覧ください

<https://youtu.be/MfaH9LNJDqU>



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第103期 (2026年3月31日現在)	第102期 (2025年3月31日現在)	科 目	第103期 (2026年3月31日現在)	第102期 (2025年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	124,745	151,150	流 動 負 債	44,578	71,472
現金及び預金	37,890	36,388	支払手形及び買掛金	12,924	13,965
受取手形、売掛金及び契約資産	22,745	23,956	電子記録債務	2,220	1,037
電子記録債権	3,912	3,425	短期借入金	10,733	10,135
有価証券	5,000	18,000	リース債務	274	243
商品及び製品	14,171	35,790	未払法人税等	654	2,895
仕掛品	35,562	26,461	未払費用	2,255	2,101
原材料及び貯蔵品	334	40	契約負債	10,458	36,353
その他の流動資産	5,228	7,160	賞与引当金	2,276	2,382
貸倒引当金	△ 99	△ 72	製品保証引当金	786	727
固 定 資 産	48,730	48,457	その他の流動負債	1,994	1,629
有 形 固 定 資 産	33,512	33,973	固 定 負 債	10,357	10,964
建物及び構築物	20,637	21,218	長期借入金	59	—
機械装置及び運搬具	4,293	4,300	リース債務	469	503
土地	6,778	6,741	繰延税金負債	3,165	3,194
リース資産	704	706	役員退職慰労引当金	29	26
建設仮勘定	219	221	退職給付に係る負債	6,035	6,826
その他の有形固定資産	879	785	資産除去債務	573	413
無 形 固 定 資 産	984	1,150	その他の固定負債	24	—
のれん	324	378	負 債 合 計	54,935	82,436
その他の無形固定資産	660	771	純 資 産 の 部		
投資その他の資産	14,233	13,332	株 主 資 本	100,754	102,613
投資有価証券	12,006	11,754	資本金	12,484	12,484
出資金	264	241	資本剰余金	11,539	11,538
長期貸付金	765	2	利益剰余金	80,313	82,222
繰延税金資産	520	557	自己株式	△ 3,583	△ 3,631
その他の投資	1,473	1,286	その他の包括利益累計額	17,786	14,557
貸倒引当金	△ 797	△ 510	その他有価証券評価差額金	6,766	6,448
資 産 合 計	173,476	199,607	為替換算調整勘定	8,470	6,596
			退職給付に係る調整累計額	2,549	1,512
			純 資 産 合 計	118,541	117,171
			負債・純資産合計	173,476	199,607

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	第103期	第102期
	(2025年4月1日から 2026年3月31日まで)	(2024年4月1日から 2025年3月31日まで)
売上高	132,815	168,191
売上原価	91,460	114,643
売上総利益	41,354	53,547
販売費及び一般管理費	36,987	39,452
営業利益	4,367	14,095
営業外収益	1,326	1,010
営業外費用	691	1,020
経常利益	5,002	14,085
特別利益	2,554	4,051
特別損失	4,002	232
税金等調整前当期純利益	3,554	17,904
法人税、住民税及び事業税	2,521	5,063
法人税等調整額	4	243
当期純利益	1,028	12,597
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,028	12,597

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	第103期	第102期
	(2025年4月1日から 2026年3月31日まで)	(2024年4月1日から 2025年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,461	8,331
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,818	910
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,508	△ 6,532
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,784	42
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 12,004	2,752
現金及び現金同等物の期首残高	54,341	51,588
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	382	—
現金及び現金同等物の期末残高	42,720	54,341

連結財務諸表のポイント

資産

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べ261億3千1百万円減少し、1,734億7千6百万円となりました。減少の主な内訳は、商品及び製品が216億1千8百万円減少したこと等によります。

負債

負債は、前連結会計年度末に比べ275億1百万円減少し、549億3千5百万円となりました。減少の主な内訳は、契約負債が258億9千5百万円減少したこと等によります。

純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ13億6千9百万円増加し、1,185億4千1百万円となりました。増加の主な内訳は、親会社株主に帰属する当期純利益10億2千8百万円の計上があったこと等によります。

この結果、当連結会計年度末の自己資本比率は68.3%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、前連結会計年度末に比べ116億2千1百万円減少し、427億2千万円となりました。

なお、当連結会計年度における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、84億6千1百万円の減少になりました。これは主として、棚卸資産の減少による収入139億5千8百万円、税金等調整前当期純利益の増加による収入35億5千4百万円があったものの、契約負債の減少による支出262億5千1百万円等があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、18億1千8百万円の減少になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出24億9千9百万円等があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、35億8百万円の減少になりました。これは主として、配当金の支払額33億9百万円等があったことによります。

財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第103期 (2026年3月31日現在)	第102期 (2025年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	85,992	113,974
固定資産	51,499	50,673
有形固定資産	23,023	24,020
無形固定資産	447	578
投資その他の資産	28,028	26,074
資産合計	137,491	164,647
負債の部		
流動負債	34,455	61,410
固定負債	10,383	10,096
負債合計	44,838	71,507
純資産の部		
株主資本	85,886	86,692
資本剰余金	12,484	12,484
利益剰余金	11,539	11,538
自己株式	65,444	66,300
評価・換算差額等	△ 3,583	△ 3,631
その他の証券評価差額金	6,766	6,448
	6,766	6,448
純資産合計	92,652	93,140
負債・純資産合計	137,491	164,647

損益計算書

(単位：百万円)

科目	第103期 (2025年4月1日から 2026年3月31日まで)	第102期 (2024年4月1日から 2025年3月31日まで)
売上高	93,397	131,859
売上原価	71,050	95,249
売上総利益	22,347	36,610
販売費及び一般管理費	21,261	25,043
営業利益	1,085	11,567
営業外収益	3,588	3,148
営業外費用	665	1,131
経常利益	4,007	13,584
特別利益	2,377	2,532
特別損失	2,714	71
税引前当期純利益	3,670	16,044
法人税、住民税及び事業税	1,305	3,830
法人税等調整額	△ 88	461
当期純利益	2,453	11,752

ホームページのご紹介

当社ではホームページによる情報開示を積極的に行っております。財務情報や最新ニュースをはじめとするIRサイト「投資家情報」も掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行っております。



<トップページ>



<投資家情報>

<https://www.shibaura-machine.co.jp>



グローバルネットワーク (2026年3月31日現在)

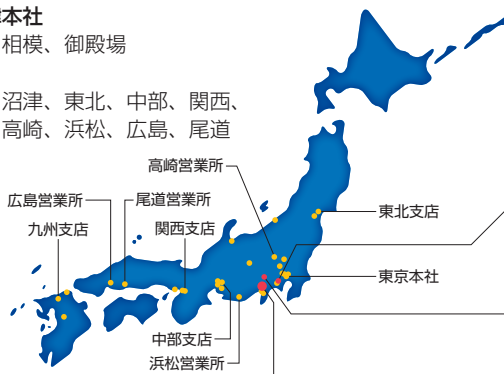


本社
製造拠点
販売・サービス拠点

● 東京本社、● 沼津本社
● 工場 沼津、相模、御殿場
● 32拠点
(主な拠点) 東京、沼津、東北、中部、関西、九州、高崎、浜松、広島、尾道



沼津本社
沼津工場



相模工場



御殿場工場



製造拠点
販売・サービス拠点

● 工場 中国、インド、タイ、ドイツ
● 47拠点
東アジア 8拠点
東南アジア 28拠点 (インド22拠点含む)
北米・中南米 7拠点
欧州 4拠点

ドイツ工場
SHIBAURA MACHINE LWB
GmbH



インド工場
SHIBAURA MACHINE
INDIA PRIVATE LIMITED



中国工場
SHIBAURA MACHINE (ANHUI CO., LTD.)



タイ工場
SHIBAURA MACHINE MANUFACTURING
(THAILAND) CO., LTD.



会社の概況／株式の状況 (2026年3月31日現在)

会社の概況

- (1) 所在地
東京都千代田区内幸町二丁目2番2号
- (2) 創業
1938年(昭和13年)12月
- (3) 設立
1949年(昭和24年)3月
- (4) 資本金
124億8千4百万円
- (5) 従業員数
連結：3,135名(前期末比153名増)
単独：1,536名(前期末比24名減)
- (6) 役員(2026年6月30日現在)
- | | | | |
|--------------|---|---|----|
| 代表取締役社長 | | | |
| 社長執行役員 | 坂 | 元 | 繁友 |
| 最高経営責任者 | | | |
| 最高執行責任者 | | | |
| 代表取締役 | | | |
| 専務執行役員 | 大 | 田 | 浩昭 |
| 最高財務責任者 | | | |
| 取締役 | | | |
| 専務執行役員 | 小 | 池 | 純 |
| 取締役 | | | |
| 常務執行役員 | 甲 | 斐 | 義章 |
| 最高技術責任者 | | | |
| 社外取締役 | 佐 | 藤 | 潔 |
| 社外取締役 | 岩 | 崎 | 清悟 |
| 社外取締役 | 寺 | 脇 | 一峰 |
| 社外取締役 | 早 | 川 | 知佐 |
| 社外取締役 | 板 | 垣 | 絵里 |
| 取締役(常勤監査等委員) | 高 | 橋 | 宏 |
| 社外取締役(監査等委員) | 今 | 村 | 昭文 |
| 社外取締役(監査等委員) | 荻 | 茂 | 生 |

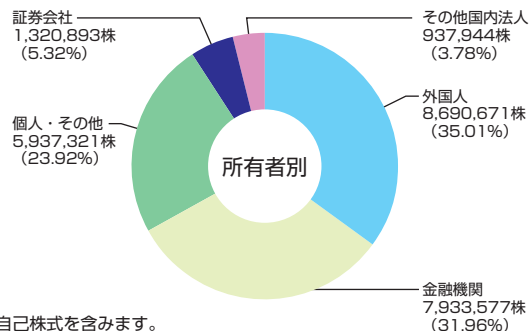
株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 72,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 24,820,406株
(自己株式1,173,394株を含む)
- (3) 株主数 11,929名
(前期末比2,999名減)
- (4) 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,919千株	16.58%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,114	8.94
野村証券株式会社	1,026	4.34
株式会社静岡銀行	596	2.52
芝浦機械従業員持株会	544	2.30
BNYM AS AGT/CLTS	535	2.27
NON TREATY JASDEC		
芝浦機械取引先持株会	487	2.06
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	442	1.87
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE SEGREGATION ACC FOR THIRD PARTY	424	1.80
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	369	1.56

(注) 1. 当社は、自己株式を1,173,394株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(5) 株式の分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会については3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告
して定める日

期末配当基準日 毎年3月31日

中間配当基準日 毎年9月30日

公告方法 電子公告 <https://www.shibaura-machine.co.jp>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店
及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設さ
れました株主様は、特別口座の口座管理機関である
三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社
にお申出ください。

芝浦機械株式会社ホームページ
<https://www.shibaura-machine.co.jp>



株主の皆様の
声をお聞かせください

コエキク

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにて
ご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー XXXXXXXXXX



ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社アロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 ☒ koekiku@pronexus.co.jp